
ピタースイート

土田かこつ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ビタースイート

【Z-コード】

Z26540

【作者名】

土田かこつ

【あらすじ】

『彼氏ができて、友達をなくした』

ある休日のささやかなやりとり。

彼女のつよがりに冷めた彼がいま見せた本音とは。

彼氏がてきて、友達をなくした。

まずメールを返さなくなつた。

ついでおしゃべりが減つた。

気付けばその子達の前で笑わなくなつていた。

冷たい奴だな、と自分でも思う。

ついこの間まで親友のよつよつたまつていた子にも、もうほとん
ど興味がないのだ。

はじめは文句を言いつつかまつてきた子達も、今ではすっかり疎
遠になつた。

かといって始終彼にべつたり張り付くのも気にくわない。
結局、一人の時間が増えた。

勝手知つたる彼の家。

馴染んだソファに寝転んで、横目で大きな背中を追う。

彼はといえば好きな作家の新作とやらに没頭してかまつてはくれ
ない。

やつと私の目に気付いた彼は、興味なさげにきいてくる。
あくまで視線はページに落としたまま。

「どうした、」

「・・・。あなたと別れたら、ゼロから友達作れるかなつて。」

「どうして、」

「今、私、友達いない。」

「じゃ、こざという時のためにアテにできるような奴を見つけてお
くんだな、」

どうつてことないように言つ。私は口をとがらせた。

「別れたいの？」

「何の助けもないところにお前を放り出したくはないよ。」

甘い言葉と冷めた声。つかめない態度に私の声は低くなる。

「じゃあ誰もいなければ、あなたはずつとそばにいるの」

振り向く、顔。

丸くなつた目。

まばたきにあわせてまつげがふるえる。

そんなに驚くことないのに。

唇を舐めて、息をはぐ。

わかつてゐる。手を繋ぐのは好きだけど、よつかかるのは趣味じゃないのだ。彼も、私も。

だから、できるだけ軽くかわしてしまおつ。

「冗談よ」

でも、

彼がちらりと見せた表情は少しばかり残念そつで。

私はひつそりほくそ笑んで、結局彼の背中にもたれた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2654o/>

ビタースイート

2010年10月11日23時22分発行